

始業式をおこないました

本日は1学期始業式。温かな春の光を浴びて、新たな学年が始まりました。長いようで短い、あっという間の春休みを終えて、元気な姿を見せてくれたことに安心しています。本校では毎年クラス替えをおこなっているため、新しいクラスメイトや新しい担任の先生との対面に、ドキドキの登校日になりました。

始業式では、校長先生から、新たな元号である「令和」が持つ意味についてお話がありました。生徒たちも、一人ひとりが協力し、調和することの大切さについて考えるきっかけになったことと思います。

また、本年度生徒会長の言葉からは、学校の代表として誇りと目標をもち、新たな年度を進んでいく頼もしさを感じられました。以下に、生徒会長の言葉を紹介いたします。

平成最後の始業式となりました。5月には新元号「令和」元年が始まり、来年には東京オリンピックが開催される、まさに歴史が動く時代を私たちは過ごしています。

昭和の文豪、井上靖の「しろばんば」の中で、主人公のこうさくが同級生の書いた書初めに激しく心動かされたシーンがありました。「少年老い易く学成り難し」。
……（中略）……

洗足学園の生徒として過ごす日々はあっという間に過ぎ、この4月に、それぞれが新しい学年をスタートさせます。学生生活には一定の期限がありますが、月日が過ぎるのは早く、学問やつきつめたい目標を成し遂げることは困難です。洗足の創始者である、明治生まれの前田若尾先生は、まだまだ男尊女卑が激しい日本のなかにあって大正13年にこの洗足学園を設立なさっています。今よりも時代背景が厳しい中、信念を貫き、この学び舎を作ってくださいました。私たちも前田先生の信念に従い、この一年も充実した日々を過ごしていきましょう。

